

目的 私達の生活は、私的で日常的な場面から公的で非日常的な場面までさまざまな場面で成りたっており、これらの場面で着用する衣服も好みや着心地、流行や自分の立場など多くの要因を考慮に入れて選択しているといえる。本研究の目的は、(1)さまざまな生活場面で着用する衣服を選択する際に被調査者(女子大生)が考慮する着装基準の構造を解明すること、(2)選択の際に考慮する着装基準のパターンから被調査者を類型化すること、(3)類型化された被調査者のセグメントのプロファイルを種々の変数によって特徴づけること、である。

方法 理論仮説に基づく分析モデルをもとに調査票を作成し、女子大生490名を対象に郵票留置法によるアンケート調査を行った。分析方法は、(1)着装基準の構造を経験的に究明するために、女子大生に一般的な8つの生活場面を設定し、それらの場面で着用する衣服を選択する際に考慮すると思われる着装基準11項目への反応をもとに因子分析を行う。(2)因子分析で得られた着装基準をもとに被調査者を類型化するためにクラスター分析を行う。(3)各クラスターのプロファイルを明らかにするために種々の変数とのクロス集計を行う。

結果 (1)因子分析の結果、着装基準を構成する主要な因子として「社会性因子」「ファッション性因子」「着心地・実用性因子」の3つが得られた。(2)因子分析で得られた3つの因子への被調査の因子得点をもとにクラスター分析(ワード法)を行った結果、4つのクラスターが得られた。(3)4つのクラスター別に独立変数や媒介変数とのクロス集計を行った結果、生活態度や知識、着装行動などにクラスター間の差異がみられた。